

地域支援だより

平成24年6月15日

第23号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

きらりNet

本を身近に～昨年度の取組から～



本校は、図書室が教室棟から離れた場所に配置されています。

そのため図書室まで遠く、往復の時間がかかってしまい、なかなか利用しづらいという声が聞かれました。そこで、児童生徒はもちろん、職員も普段の学習の中で本を活用してもらうにはどうしたらよいか、もっと本を身近に感じてほしいと考えて取り組んだことについて紹介します。

移動書棚の活用

カラーボックスにキャスターを付けて、移動できるようにした書棚です。月ごとにテーマを決めて選んだ本や新しく入った本を並べ、学部ごとに教室前の廊下に設置しています。

その月のお薦めの本が、図書室まで行かなくても見ることができるので、貸し出し率がアップしました。



「お話キャラバンがやってきた！～読書週間の取組～」

11月下旬に2週間の読書週間を設け、図書部職員が『お話キャラバン』と銘打って、教室棟のホールで読み聞かせをしました。

大型絵本やぬいぐるみを使ったり、カードを提示したり、読み聞かせとベースの演奏を組み合わせたりと、文章の朗読だけでなく、視覚や聴覚に訴えるように工夫して、楽しく読み聞かせるようにしました。さらに、劇遊びの学習をしている小学部の児童たちが、「3びきやぎのがらがらどん」を披露してくれるなど、楽しい『お話キャラバン』となりました。

実施後のアンケートでは「子どもたちが楽しんでいた」、「またやってほしい」との声をいただきました。図書室で利用者を待つのではなく、こちらから児童生徒のところへ出向いて読み聞かせを行う『お話キャラバン』は、昨年度の反省を生かして、今年度の読書週間でも実施する予定です。



そらまめくんのベッド



3びきやぎのがらがらどん

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

連載 本校の授業の様子から ～ 運動会 小学部趣向走から ～

小学部の趣向走「ぼくたちのきらリン☆ピック」を紹介します。
「きらリン☆ピック」とは、紅白に分かれた児童がそれぞれ2人1組のペアになり、リレー形式で、たすきをつないでいく競技です。コースの途中にはシュートエリアがあり、サッカーゴールに向かって一人ずつボールを蹴ったり、投げたりしてシュートを決めなければいけません。一本のたすきを2人でかけて進むので、友達とスピードを合わせながら進むところもポイントです。シュート場面では、少し難易度を上げて遠くからシュートを狙う児童、ボールが転がりやすいようにペアの友達のスロープを持ってあげる児童、ゴールに入るまで何度もシュートに挑戦する児童など、「きらりのスターたち」のがんばりが様々なところで見られました。そして、全員が無事にゴールをした後は、すてきな金メダルがみんなの胸に輝いていました。



たすきをかけて一緒に進むよ。

サッカーのようにシュートをするよ。



ボールの大きさもいろいろあるよ。わたしは大きいボールでシュート！

スロープを手伝ってあげるね。



自立活動研修会のご案内

テーマ：『摂食・食事動作の理解と援助』

講師：秋田県立医療療育センター 作業療法士 羽澤優子 氏

日時：7月23日(月) 10:00～11:30

場所：秋田きらり支援学校 会議室



学校名・氏名・講師への質問事項をご記入の上、**FAX**でお申し込みください。

担当：自立活動部 吉尾

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。



教頭 五十嵐 昌司 地域支援部 遠藤 美和子

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail: kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

次号は7月20日発行予定です。